



目 次

1 ポートエッセイ — ロシアによるウクライナ侵攻の早期終結を願う —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 2年4か月ぶりの北海道へのクルーズ船! にっぽん丸が函館港、室蘭港へ寄港
(函館市港湾空港振興課、室蘭市港湾部港湾政策課)
- 「関東地方整備局 港湾空港関係組織 100周年史」をホームページに公開!
(関東地方整備局 港湾空港部)
- 自動係留装置技術検討委員会を開催しました
(北陸地方整備局 港湾空港部)
- 両津港南埠頭再編整備事業着工式典が開催されました
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)
- 神戸港兵庫運河 Jブルークレジット証書交付式報告会を開催
(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 八幡浜港のフェリーターミナルが供用開始しました!
(八幡浜市産業建設部水産港湾課)

1 ポートエッセイ — ロシアによるウクライナ侵攻の早期終結を願う —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

今年2月に突如として始まったロシアによるウクライナ侵攻は、国際社会の平和と秩序、安全を脅かしており、明らかに国連憲章に違反し断じて許されない行為である。

この侵攻により何の罪もない子どもなど多くの一般人が犠牲になっており、断じて容認できるものではなく、さらにチェルノービリ(チェルノブイリ)原発が標的になったことは世界的大惨事を招きかねないあまりにも非道な暴挙である。

私が市長を務める新潟市は、ロシアのハバロフスク、ウラジオストク、ピロビジャンの3市と姉妹都市として、これまで文化やスポーツ、青少年など様々な分野で交流を推進するなど、半世紀以上にわたって北東アジア地域の平和と安定を求め、市民とともに友好と相互理解に尽くしてきた。それだけにロシアには平和を望む世界の声に一日も早く応えてほしいと強く願っている。

この度のウクライナ侵攻をめぐり、ロシアに対する経済・金融制裁が拡大し、国際市場でロシアが高いシェアを持つ原油やLNGをはじめとするエネルギー資源や、小麦などの価格高騰と調達不安が生じており、企業活動や市民生活に影響が出始めている。

資源やエネルギー、穀物の大半を海外に依存している我が国であるが、言うまでもなく世界が平和で安定していることを前提に維持されており、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックや、この度のウクライナ侵攻など想定外の出来事により先行きの見通しが立たない状況となってしまった。コロナ禍で露呈したサプライチェーンの脆弱性によって製造業の稼働がままならない状況が続いている状況下で、この度の資源価格の高騰に直面し不安が増大した形だ。

我が国ではこれまでも、エネルギー安全保障や食料安全保障の観点から、リスク回避の取り組みは進められており、LNGではこの20年間で調達先を8か国から18か国に増やしているが十分ではなかったと言える。今後は、資源の海外依存の低減に向け再生エネルギーの推進や農産物の自給率の向上といった取り組みも一層重要度を増すのではないだろうか。経済産業省でもロシア依存を戦略的に低減させるための協議をはじめており、今後の動きに注目したい。

*:

2 トピック

*:

●2年4か月ぶりの北海道へのクルーズ船！につぼん丸が函館港、室蘭港へ寄港
 (函館市港湾空港振興課、室蘭市港湾部港湾政策課)

「につぼん丸」が、3月28日に函館港、3月29日に室蘭港に寄港しました。これは3月26日に横浜港を出港後、函館港、室蘭港、大船渡港に寄港し、横浜港へ帰港する(株)三越伊勢丹ニッコウトラベルのチャータークルーズによるものです。北海道港湾へのクルーズ船寄港は、令和元年11月の函館港から2年4か月ぶりとなりました。

函館港では、若松ふ頭に着岸後、クルーズ船の旅客はバスやタクシー、徒歩、路面電車など、思い思いの交通手段で観光に出かけました。地元的女子高校生による歓迎動画の船内放映や地元名菓の船内配付など、コロナ禍のため人同士のふれあいを極力避けた形でのおもてなしを実施したほか、「みなとまちづくり女性ネットワーク函館」からは、これまでのクルーズ船の旅客の意見を取り入れた手作りの観光マップと函館近海で獲れる珍魚「ごっこ」のマグネットを配布しました。

室蘭港では久しぶりのクルーズ船を歓迎するため、市民団体「室蘭港を愛する会」のメンバーが国際信号旗を掲げて待ち受けました。クルーズ船の旅客は室蘭港から1時間圏内となるアイヌ文化の発信拠点「民族共生象徴空間ウポポイ」や洞爺湖有珠山ジオパーク、天然の断崖が魅力である市内の「地球岬」などを訪れ、雪景色の残る北海道の春を満喫しました。



函館港若松ふ頭に着岸した につぼん丸



室蘭港内の白鳥大橋を通過し、入港した につぼん丸

●～「関東地方整備局 港湾空港関係組織 100周年史」をホームページに公開！～

(関東地方整備局 港湾空港部)

関東地方整備局(港湾空港関係)は、2021年度、組織の前身である内務省横浜土木出張所の設立から100周年を迎えました。

この節目にあたり、100年の沿革などをまとめた「国土交通省関東地方整備局 港湾空港関係組織 100周年史」を作成し、関東地方整備局港湾空港部ホームページに掲載しました。

国内最大水深(-18m)の耐震強化岸壁を備えた横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナルや東京ゲートブリッジ、東京国際空港(羽田空港)D滑走路など、これまで手がけてきた主要プロジェクトを中心に、写真等を交えて紹介しております。当時の社会情勢や港の変遷も含め、ぜひご覧ください。

国土交通省関東地方整備局 港湾空港関係組織 100周年史サイト:

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/history/index.html>



●自動係留装置技術検討委員会を開催しました

(北陸地方整備局 港湾空港部)

令和5年度に敦賀港において、我が国では初めて、船舶を公共岸壁に接岸する際の自動係留装置の本格的な導入を予定しています。導入に先立ち、令和4年度に現地において実船を使用し実証試験を行います。

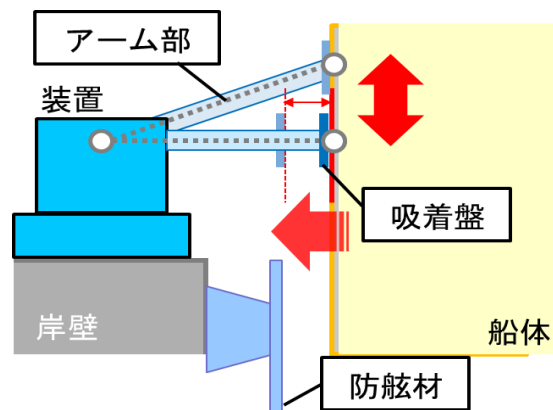
令和4年3月22日(火)に実証試験計画の検討を目的とした「自動係留装置技術検討委員会」をWeb会議方式にて開催しました。

これまで技術検討委員会では、船舶動揺シミュレーションによる自動係留装置の動揺量低減効果の検討や、装置の導入効果の検証等を目的とした実証試験計画について検討しており、今回の委員会では、実証試験計画における、従来の係留方法と比較検証するための「測定項目」や「測定方法」などについてご審議頂きました。

実証試験では、岸壁に自動係留装置を取り付け、係留作業の効率化や波浪時における船体動揺の低減効果等の確認を行う予定です。



開会の挨拶(北陸地方整備局 港湾空港部長)



自動係留装置の概要図

委員会の詳細は、下記に記載しておりますので参照下さい。

<https://www.pa.hrr.mlit.go.jp/file/b9307fba.pdf>

●両津港南埠頭再編整備事業着工式典が開催されました

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

北陸地方整備局と新潟県は、令和4年3月26日(土)、あいぽーと佐渡を会場として、両津港南埠頭再編整備事業着工式典を挙行了しました。

両津港は、古くから佐渡島の人流・物流の拠点として島民の生活及び経済活動を支えてきました。新潟港との間に就航するカーフェリー・ジェットフォイルが利用する南埠頭は、供用開始から50年を迎えようとしており、施設の老朽化や社会情勢の変化に対応した埠頭再編が課題となっています。国土交通省として佐渡島での直轄事業は初めてで、同事業は岸壁の老朽化対策と併せた耐震強化岸壁への改良及び埠頭用地の拡張を新潟県と一体となって進めるものです。

式典には、地元選出国會議員や関係者ら約60人が集まり、埠頭再編整備事業の着手を祝いました。

佐渡の「鬼太鼓」によるオープニングアトラクションで式典は幕を開け、岡村次郎北陸地方整備局長の式辞、泉田裕彦国土交通政務官、花角英世新潟県知事の挨拶に続き、細田健一衆議院議員、地元県議会議長・市議会議長から祝辞をいただきました。

最後は来賓の方々による鍬入れを行い、工事の安全を祈願しました。



両津港南埠頭とフェリーターミナル



鍬入れの様子

●神戸港兵庫運河 Jブルークレジット証書交付式報告会を開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

令和4年3月28日(月)に神戸市立浜山小学校でJブルークレジット証書交付式報告会を開催、その後兵庫運河に場所を移し、アマモの移植を行いました。

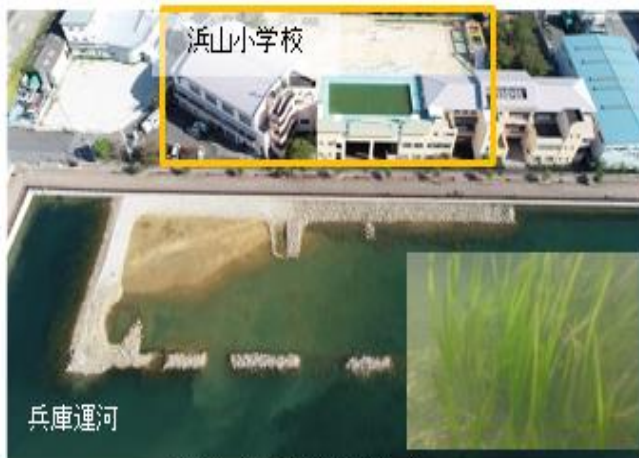
本証書交付式報告会では、令和4年3月18日(金)に東京にて開催されました「Jブルークレジット認証交付式」について、地元関係者への報告を行いました。

沿岸域の藻場等に生息する海洋植物にCO2として取り込まれた炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、国連環境計画の報告書(2009年)において、CO2吸収源の新たな選択肢として提示されています。

国土交通省では、藻場の保全活動等の実施者により創出されたブルーカーボンを貨幣換算したものを「Jブルークレジット」として認証し、CO2削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」を進めています。

近畿地方整備局にて、港湾工事により発生したリサイクル材を活用して兵庫運河に干潟を整備しましたところ、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワークの地元関係者にて、アマモの移植や環境学習の場に活用されました。この度、兵庫運河のプロジェクト「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」で、藻場や干潟の保全活動等により創出されたCO2吸収量が「Jブルークレジット」として認証され、公募により購入申込のあった企業・団体等との間でクレジット取引されました。「Jブルークレジット」の認証・取引は全国2例目、西日本では初となります。

「Jブルークレジット」の創出者4者や購入者14者、神戸市など、多数の方にご参加頂きました。



整備した干潟と繁茂したアマモ



証書交付

